

## 里 海 P38,50

昔から豊かな海の恵みを利用しながら生活してきている、里山と同様に人のくらしと強いつながりのある地域。

## 里 沼 P50

里山と同様に、人のくらしと強いつながりのある湖沼、池沼を「里沼」と呼ぶ。池沼、ため池は、里山の要素であるが、印旛沼と手賀沼は生物多様性からも、人の生活からも特筆すべき存在であることから、特に里沼として取り上げている。

## 里 山 P29,38,69

人が日常生活を営んでいる地域に隣接し、又は近接する土地のうち、人による維持若しくは管理がなされており、若しくはかつてなされていた一団の樹林地又はこれと草地、湿地、水辺地その他これらに類する状況にある土地とが一体となっている土地を言う。

## 里山里海 P50

里山里海とは、「里と山」また「里と海」、さらには「里と山及び海」などの「里」すなわち人々の住まう場（集落）とその周辺の田畑や森林、草地、川沼、海岸・海域等の様々な環境モザイクが一体となった空間であり、地域に根ざした人々の生活・産業及び歴史や伝統の文化を包含する人・自然・文化が調和・共存する複合領域。

立地条件により、4タイプの里山（山間里山、台地里山、谷津里山、平野里山）、里沼、里川、さらに3タイプの里海（干潟里海、砂浜里海、磯里海）の計9タイプの里山里海が認識される。

## 三点比較式臭袋法 P160

悪臭を人の鼻（嗅覚）で測定するいわゆる官能法の一つで、悪臭を含む空気が入っている袋1つと、無臭の空気が入っている袋2つの計3つの袋の中から、試験者に悪臭の入っている袋を当ててもらふ方法である。6人以上の試験者によって行い、悪臭を次第にうすめながら、不明又は不正解になるまでこれをくり返す。その結果を統計的に処理して何倍にうすめれば区別がつかなくなるかとの値を出し、その値を臭気濃度とする。

## COD(化学的酸素要求量) P164

Chemical Oxygen Demand の略。BODとともに有機物などによる水質汚濁の程度を示すもので、酸化剤を加えて水中の有機物と反応（酸化）させた時に消費する酸化剤の量に対応する酸素量を濃度で表した値を言う。

## 指定廃棄物 P215

一定濃度（1キログラム当たり8,000ベクレル）を超える放射性物質を含み、環境大臣が指定した廃棄物

## 自動車リサイクル法 P33

「使用済自動車の再資源化等に関する法律」の略称。自動車製造業者等を中心とした関係者に適切な役割分担を義務付けることにより、使用済自動車のリサイクル・適正処理を図るための法律。

## 地盤沈下観測井 P188

地盤沈下が地下のどの地層で生じているかを調べるための施設で、二重管構造の井戸を設置し、内管の抜け上がり量によって沈下量と地下水位を測定する。

## 指標生物 P179

一定の環境条件を必要とする生物で、その生物の存在・生息数を調査することにより、環境の質を推定することができるものを言う。

## 集団施設地区 P43

自然公園において、各種の公園施設を有機的かつ総合的に一定地区に整備し、公園の適正な利用を増進するために公園計画に基づいて指定される地区。

## 重量濃度規制方式 P130

大気は、温度や圧力で容積が変化するため温度が0℃で圧力が1気圧の状態に換算した乾き排ガス（水分を含まないガス）1m<sup>3</sup>の中に含まれる重量により規制する方式。ばいじんはg/m<sup>3</sup>N、有害物質（窒素酸化物を除く）はmg/m<sup>3</sup>Nで表す。

## 循環型社会 P77

廃棄物を限りなく少なくし、焼却や埋立処分による環境への悪い影響を極力減らして、限りある地球の資源を有効に繰り返し利用する社会のこと。

## 浄化槽 P164

し尿や生活雑排水（厨房排水、洗たく排水等）を沈殿分離あるいは微生物の作用による腐敗又は酸化分解等の方法によって処理し、それを消毒、放流する装置を言う。

し尿のみを処理する装置を単独処理浄化槽、し尿及び生活雑排水を一緒に処理する装置を合併処理浄化槽と言う。

浄化槽法の改正により、平成13年4月以降は原則として単独処理浄化槽の設置が禁止され、単独処理浄化槽の使用者は、合併処理浄化槽への転換等に努めることとされている。

## 振動レベル P149

振動の加速度レベルに人体の振動感覚により補正を加えたもので、単位としては、デシベルが用いられる。通常振動感覚補正回路をもつ公害用振動計により測定した値で、計量法の改正により「振動加速度レベル」と定義されたが、簡単に「振動レベル」と呼んでいる。

## 水準点 P186

標高を測るための標石で地盤変動状況などを調べるための基準として用いられる。

日本では、全国の国道や主要な道路沿いに2kmおきに設置されている。

## スクリーニング P246

環境影響評価手続において、事業の特性や事業の実施される地域の特性を踏まえ、その事業について環境影響評価を実施する必要があるか否かについて個別の事業ごとに判断する仕組み。

環境影響評価法において、事業者からの届出に対してその事業の許認可等を担当する行政機関が判定を行う手続として、この仕組みが導入されている。

## スコーピング P246

環境影響評価手続において、事業者が、調査・予測・評価の項目や方法について地方公共団体や住民等に情報を提供し意見を聴いた上で、その設定について個別に判断する仕組み。

「環境影響評価法」及び「千葉県環境影響評価条例」において、環境影響評価方法書に係る手続として、この仕組みが導入されている。

## 3 R(スリーアール) P77

資源循環型社会をつくるための3つの取組（ごみを減らす「リデュース」、何回も繰り返し使う「リユース」、ごみを原材料として再生利用する「リサイクル」）の英語の頭文字「R」とったもの。《関連用語：2R（ツー・アール）》

## 生態系 P38,69

あるまとまった地域に生活する生物全体とその地域を構成する環境が一体となったシステムを指す。池、森、山、海域などが、それぞれひとつの生態系として扱われる。生態系の中では生物同士、また生物と環境が互いに影響し合いつつ継続的な安定した関係を保っている。開発などによる自然の改変は、その地域の生態系のバランスを崩し、そこに住んでいた、いくつかの生物を滅ぼしたりして、生態系の内容を変えてしまうおそれがある。

## 生物多様性 P38,43,50,60

生物は地球上のあらゆる場所に見られ、その色・形・大きさ、行動、生活史など、極めて変化に富んでおり、こうしたすべての生物の変異を「生物多様性」と言う。生物の変異は、遺伝子、種、生態系と言う、それぞれのレベルで捉えることができる。生物多様性は、その場所の環境や生物間のつながりのもとで、生物進化の長い歴史の結果としてつくられてきたものである。

## 騒音レベル P146

計量法第71条の条件に合格した騒音計で測定して得られる騒音の大きさを表すものである。

騒音計の周波数補正回路A性で測定した値をデシベルで表す。なお、計量法の改正により騒音の規制基準等はすべて「音圧レベル」と定義されたが、騒音行政上従来どおり「騒音レベル（又はA特性音圧レベル）」と呼んでいる。

## 総量規制 P130

濃度規制のみでは環境基準を達成できない地域において、その地域にある工場等の排出源に排出量等を割り当て、工場等を単位として規制すること。現在、「大気汚染防止法」（硫

て規制すること。現在、「大気汚染防止法」（硫黄酸化物と窒素酸化物）と「水質汚濁防止法」（COD、窒素及びりん）に基づく総量規制がある。→「汚濁負荷量」

### [た行]

#### 炭化水素(HC) P120

炭素と水素とからできているものを炭化水素と言ひ、メタン、エタン、プロパン、アセチレン、ベンゼン、トルエン等があり、有機溶剤や塗料、プラスチック製品等の原料として使用されている。主として塗料・印刷工場、化学工場やガソリンスタンド等の貯蔵タンクからも発生するほか、自動車等の排出ガスにも含まれている。窒素酸化物とともに光化学オキシダントの原因物質の一つである。

#### 地域森林計画 P51

民有林を対象に、立木竹の伐採、造林、林道開設、保安施設等について地域の实情に沿った森林資源管理目標や森林整備及び保全の目標を5年ごとに10年を1期として都道府県知事が作成する計画。

#### 窒素酸化物(NOx) P120

石油、ガス等燃料の燃焼に伴って発生し、その発生源は工場、自動車、家庭の厨房施設等、多種多様である。燃焼の過程では一酸化窒素(NO)として排出されるが、これが徐々に大気中の酸素と結び付いて二酸化窒素となる。

窒素酸化物は人の呼吸器に影響を与えるだけでなく、光化学スモッグの原因物質の一つである。

#### 中間処理施設 P80

廃棄物の無害化や減量化・再資源化あるいは安定化を図るため、焼却、脱水、破碎、熔融等を行う施設を言う。

#### 沖積層 P185

1万年くらい前から現在に至るまでの間に堆積してできた地層で、河川の流域や海岸沿いの低地に分布している。やわらかい粘土・シルト・砂などで構成されている。

#### 2R(ツーカー) P3

Reduce (リデュース)、Reuse (リユース) の2つの英語の頭文字を表し、それぞれの意味するものは次のとおり。

- ・ Reduce (リデュース) : 廃棄物自体の発生を少なくなるようにすること
- ・ Reuse (リユース) : 使用済みになっても、その中でもう一度使えるものは廃棄しないで再使用すること

循環型社会形成推進基本法(平成12年法律第110号)において、Recycle(リサイクル)より優先順位が高くなっている。

《関連用語: 3R(スリー・アール)》

#### 低公害車 P135

従来のガソリン車やディーゼル車に比べて、窒素酸化物や粒子状物質等の大気汚染物質の排出が少ない、又は全く排出しない自動車。

電気自動車、燃料電池自動車、天然ガス自動車、プラグインハイブリッド自動車、クリーンディーゼル自動車に加えて、排出ガスと燃費性能に優れた低燃費かつ低排出ガス認定車が実用化されている。

#### 低周波音 P158

周波数が1Hz ~ 100Hzの音を低周波音と呼び、その中でも、人間の耳では聞こえにくい音(20Hz以下の音)を「超低周波音」と呼んでいる。

低周波音の影響としては、不快感や圧迫感などの心身的影響と窓や戸の揺れ・がたつきなどの物的影響がある。

#### 電気自動車 P15,145

バッテリー(蓄電池)に蓄えた電気でモーターを回転させて走る自動車で、自動車からの排出ガスは一切なく、走行騒音も大幅に減少する。

#### 天然ガスかん水 P185

天然ガスとヨウ素が溶存している塩分を含む地下水で、太古の海水が地下深くに閉じ込められたものである。本県一帯の上総層群(300万~40